

## 立命館の主な建築・景観・デザイン関連賞受賞歴

年度	キャンパス	対象	賞	受賞理由・賞の趣旨・応募理由等	賞の主催
1991	衣笠キャンパス	西園寺記念館	第2回京都市都市景観賞市長賞	☆優れた都市景観をつくり出している建築物・デザインを表彰する	京都市
2015	衣笠キャンパス	平井嘉一郎記念図書館	第4回ガラス防火区画デザイン・コンペ2015準優秀賞	☆ガラス防火区画デザイン・コンペとはガラス入り耐火間仕切壁の製品開発を行うパイロシステム株式会社が主催する建築コンペです。	パイロシステム株式会社
2016	衣笠キャンパス	平井嘉一郎記念図書館	第50回SDA賞入選	☆優れたサインデザイン作品を広く社会にアピールすることにより、サインデザインの普及および啓発を図ることを目的として、1966年以来続けられてきた日本で唯一のサインデザインを対象とした顕彰事業です。	公益社団法人日本サインデザイン協会
2016	衣笠キャンパス	平井嘉一郎記念図書館	DSA日本空間デザイン賞2016入選	☆空間デザインの価値を未来へ繋ぐために設立された日本最大級のデザインアワードです。社会が複雑化するなか、人々の価値はモノの豊かさからココロの豊かさへと変化し、多くの課題と向き合っています。この社会の多面的な問題をデザインのちからによって解決に導き、希望あふれる未来を切り拓くことが日本空間デザイン賞の使命です。	一般社団法人日本空間デザイン協会 ／一般社団法人日本商環境デザイン協会
2016	衣笠キャンパス	平井嘉一郎記念図書館	平成28年照明普及賞	☆施設の企画、設計、施工などに多大な功績のあった個人、法人またはグループに与えられたもので、賞の選考にあたっては、視環境、照明技法、照明効果などの観点から総合的に審査されます。	一般社団法人照明学会
2019	衣笠キャンパス	長江家住宅プロジェクト	2019年度グッドデザイン賞	☆かつて職住近接の町家が並んでいた京都の街並みが、消滅の危機に瀕している。そんな状況の中で民間企業が先頭に立ち、産学官連携により復原と保存と再利用を目指して立ち上げたプロジェクトで、民間事業者と教育・研究機関である大学が連携し、京都の歴史・文化を象徴する大型京町家を保全・活用し、京都市および京都市景観・まちづくりセンターがサポートする取り組みです。立命館大学ではアート・リサーチセンターが中心となり、継続的に京町家や船鉾、長江家住宅に関する調査研究を行っており、学生による長江家住宅運営や船鉾保存会の山鉾行事をサポートしています。今後同種の試みが広がっていくことを期待して、そのひな型としての意味から選定しました。京都市指定有形文化財である長江家の復原を軸に、民間企業のオフィスおよび迎賓館として利用が試みられている点がユニークです。	公益財団法人日本デザイン振興会
2019	衣笠キャンパス	長江家住宅プロジェクト	令和元年度京都景観賞京町屋部門市長賞	☆本プロジェクトは先代からの想いを受け継ぎ、町家での暮らし文化を継承し、研究実践の場とした表具替えや屏風祭りなどの年中行事を町家の中で行っている点で評価を受けました。	京都市
2020	衣笠キャンパス	長江家住宅プロジェクト	都市住宅学会賞・業績賞	☆文化財保護を目的に長江家住宅をフージャースが取得し、立命館大学と連携しながら受け継いでいることを評価。	公益社団法人都市住宅学会

年度	キャンパス	対象	賞	受賞理由・賞の趣旨・応募理由等	賞の主催
2001	びわこ・くさつ キャンパス	リエゾンオフィス	2001年度グッドデザイン賞	☆大学の知的資源を社会に活かし社会から研究テーマや資金を導入するシステム；日本のリエゾン活動（TLOとも言う）の先導的な役割を果たした。立命館大学ではリエゾン活動に基づく外部資金導入によって、8つの研究センターが立ちあがり、社会的貢献を果たすと伴に、学内の研究環境を充実した。新領域を開拓した実績を評価する。	公益財団法人日本デザイン振興会
2001	びわこ・くさつ キャンパス	理工学部ロボティクス 学科川村研究室	2001年度グッドデザイン賞	☆高齢者・身障者支援、スポーツトレーニング、力感覚仮想現実感などを可能にする装着型人間運動補助機械；人工現実感、スポーツトレーニング、高齢者・身障者支援などでは、人間に装着できる機械要素の開発が重要となっている。このためには、従来の重く、大きく、硬い機械要素ではなく、軽く、小さく、柔らかい機械要素が必要となる。本提案の機械要素は、人間に装着することを条件として、装着型機械システムの基本となる。具体的には、空気圧方式の小型軽量かつ安全な装着型補助筋肉など、すでに数例以上の開発にも成功している。	公益財団法人日本デザイン振興会
2015	びわこ・くさつ キャンパス	トリシア	第1回低炭素な「まちと建物」コンテスト優秀賞	☆学校法人立命館の「立命館大学BKC Tricea（トリシア）は、環境に配慮した仕掛けや仕組みを多く配置し、建物自体が上質な研究素材として積極的に利用できる環境教育実験棟。	滋賀県
2017	びわこ・くさつ キャンパス	環境教育実験棟TRICEA	第3回サステイナブルキャンパス賞建築・設備部門 奨励賞	☆TRICEA(トリシア)は、立命館大学理工学部の先端を支える教育・研究の拠点として、建築・土木系の三学科が入居する施設である。回遊性のある学生たちの居場所確保、水や緑の自然との循環性を高める役割を担うことを目指すと共に、CASBEE（建築環境総合性能評価システム）で最上位のSクラスを取得するだけでなく、「環境教育実験棟」として建物を教材として活用し、環境技術の実験・実証と生きた環境教育につなげる。	一般社団法人サステイナブルキャンパス推進協議会
2018	びわこ・くさつ キャンパス	Sustainable Week実行 委員会	第4回サステイナブルキャンパス賞学 生活動・地域連携部門 大賞・特別 賞	☆次世代リーダーを育成する増殖型SDGsエコシステムの構築	一般社団法人サステイナブルキャンパス推進協議会
2020	びわこ・くさつ キャンパス	キャンパス	滋賀県低炭素社会づくり賞	☆事業者行動計画書制度において、事業者行動計画書および報告書を提出した者のうち、事業活動における自社の温室効果ガス排出量の削減に関して他の事業者の模範となる特に優れた取組を行っている事業者を表彰します。	滋賀県
2020	びわこ・くさつ キャンパス	コアステーション	第6回サステイナブルキャンパス賞建 築・設備部門 奨励賞	☆中央熱源改修を契機にした省エネルギー化の推進	一般社団法人サステイナブルキャンパス推進協議会

年度	キャンパス	対象	賞	受賞理由・賞の趣旨・応募理由等	賞の主催
2015	大阪いばらきキャンパス	キャンパス	グッドデザイン賞	☆キャンパス周辺の街の構造をうまく読み取り、配置計画に巧みに取り入れている点、新しさと景観的調和が成功している点を評価。アジアのゲートウェイ、都市共創、地域・社会連携という三つの教学コンセプトのもとイノベーション創発キャンパスとして、「新しいキャンパスの在り方」を創出した新設キャンパスです。隣接する市の防災公園との間には塀がなく、市民開放の図書館、ホール、レストラン、日本初の商工会議所が入る、多様な人々が集う地域・社会に開かれたキャンパスです。本キャンパスでは、授業内外で学び合いができる多様なコモンズを設け、災害に強いまちづくりや市民協働、産学連携などに取組むことで、立場や世代、国籍を超えた多様なコミュニティでの学びが生まれ、キャンパス全体がラーニング・プレイスになっています。	公益財団法人日本デザイン振興会
2015	大阪いばらきキャンパス	キャンパス	コージェネ大賞民生部門特別賞	☆新キャンパスへのコージェネレーション導入とそれを軸とした防災面での地域連携構築（大阪府茨木市）	一般財団法人コージェネレーション・エネルギー高度利用センター
2015	大阪いばらきキャンパス	キャンパス	日経ニューオフィス賞：近畿ニューオフィス推進賞	☆日経ニューオフィス賞は、一般社団法人ニューオフィス推進協会（NOPA）と日本経済新聞社が共催で実施する、ニューオフィスづくりの普及・促進を図ることを目的とし、創意と工夫をこらしたオフィスを表彰する制度です。快適かつ機能的なオフィスを整備し、感性を刺激し創造性を高めることに加え、知識資産や情報の運用管理のために、オフィス・コンセプトが構築され、具体的な施策が施されているか、そして効果を上げているかを審査するものです。2015年度は、応募総数134件の中から13件の「ニューオフィス推進賞」が選定されました。	一般社団法人ニューオフィス推進協会／日本経済新聞社
2015	大阪いばらきキャンパス	キャンパス・OIC地域連携室	おおさか環境賞（里山活動）：協働賞	☆開発により失われつつある茨木市北部の千提寺共有林の苗木を採取し、大阪いばらきキャンパス内の「里山エリア」に植栽・再生を目指すもので、学生、高校生を含む周辺住民の活動参加へと繋がった点を評価	大阪府
2015	大阪いばらきキャンパス	キャンパス	日本空間デザイン賞：入選	☆日本空間デザイン協会が主催する「DSA 日本空間デザイン賞」は、本年で49年目となる世界最大規模の空間環境系のデザイン賞として、毎年国内外の空間デザインの中から優れた作品を顕彰しています。 「文化・街づくり空間部門」で入選	一般社団法人日本空間デザイン協会
2015	大阪いばらきキャンパス	キャンパスおよび岩倉公園の一体的なランドスケープ	大阪ランドスケープ賞：大阪府知事賞	☆大学に地域社会への貢献が強く求められる現代社会において、地域社会と大学キャンパスとの新たな連携のあり方を、空間デザイン面ばかりでなく、施設の開放や市民参画型花壇等といったマネジメント面でも問うている挑戦的なデザイン事例であり、今後の大学キャンパスの新たなランドスケープデザインの方向性を示すものとして評価	大阪府

年度	キャンパス	対象	賞	受賞理由・賞の趣旨・応募理由等	賞の主催
2015	大阪いばらきキャンパス	キャンパス	第15回読者と選ぶ「建築と社会」賞：入選	☆立命館大学大阪いばらきキャンパスでは「都市共創」、「地域・社会連携」、「アジアのゲートウェイ」のコンセプトのもと、新たな学びのスタイルを創造している。敷地の骨格は条理制から南北・東西の軸線とし、防災公園を囲むように図書館やホール、レストランを配置した。開かれた建築とランドスケープの融合により、広域交通に分断された街の文脈の回復をめざした。多様な出会い、豊かな交流が生まれる街のようなキャンパスでは、大屋根のあるテラスとラウンジを持つ学生の主動線「コンコース」と、それに直行するセットバックテラスを持つ「緑のチャンネル」とが、外部と内部を一体的空間にしている。学生主体の学びの場のネットワークが、「キャンパス全体をラーニングプレイス」とし、講義室や研究室など内部機能に呼応したファサードが、時間により表情を変え、窓や障子の開閉等の環境行動を促す、「気付きのキャンパス」を形成している。	一般社団法人日本建築協会
2015	大阪いばらきキャンパス	キャンパス	第1回サステイナブルキャンパス賞 2015建築・設備部門	☆地域・社会とつながるエコ・イノベーション創発キャンパス。①ユーザーと環境の関りを誘発する「エコ・アクションキャンパス」、②伝統的建築要素を活かした省CO2・耐震の両立、③環境・防災を通じたまちづくりといった取り組みにより、CO2排出削減量1,458ton-CO2/年、CO2排出削減率-34%を目指す。	一般社団法人サステイナブルキャンパス推進協議会
2016	大阪いばらきキャンパス	キャンパス	平成27年度リデュースリユースリサイクル推進功労者等表彰：協議会会長賞	☆循環型社会の形成に向け、3Rに率先して取り組み、継続的な活動を通じて顕著な実績を挙げている個人・グループ・学校・事業所・地方公共団体等	一般社団法人産業環境管理協会
2016	大阪いばらきキャンパス	キャンパス	大阪都市景観建築賞：審査員特別賞	☆まず目を引くのは、塀を設けず隣接する岩倉公園と一体的なランドスケープを形成している点である。また、古来の条里制できている地域軸に合わせ建物の配置軸を形成することで、歴史性・地域性を尊重した景観を構成している。学生の主動線となる南北の「学びの軸」には、敷地に起伏の変化を持たせることで校舎の2階部分へと誘う工夫がなされており、景観的にも変化を生み出している。さらに、新名神高速道路の整備により失われつつある里山の構成種でキャンパス内に新たな里山を設置する工夫も好感が持てる。	大阪都市景観建築賞運営委員会 (大阪府・大阪市・公益社団法人大阪府建築士会・一般社団法人大阪府建築士事務所協会・公益社団法人日本建築家協会近畿支部大阪地域会・一般社団法人日本建築協会)
2016	大阪いばらきキャンパス	キャンパス	環境設備デザイン賞：2016優秀賞 (都市・ランドスケープデザイン部門)	☆建築とランドスケープの調和、都市空間や広場の提案など、より広がりのある地域や空間・環境を対象とする部門；①建築とランドスケープの調和などの他、地域環境の保全や回復に取り組んだもの、②道路や公園緑地、都市インフラ、まちなみ・景観など地域環境の向上に取り組んだもの、③地元産材の利用や地域エネルギーの活用など、地域風土に適した取り組み、④面的なエネルギーの活用、防災性やレジリエンシーに配慮した自立型インフラの形成などに取り組んだもの	一般社団法人環境設備総合協会

年度	キャンパス	対象	賞	受賞理由・賞の趣旨・応募理由等	賞の主催
2016	大阪いばらきキャンパス	キャンパス	第4回インテリアプランニングアワード2016：入選	☆審査のポイントは、コンセプトメイキング、プランニングプロセス、スペースデザイン、ファージニシング、イノベーションについて総合的に判定され、かつ如何なる点において秀でているかが問われました。	一般社団法人日本インテリアプランナー協会
2017	大阪いばらきキャンパス	キャンパス	電気設備学会賞：施設奨励賞	☆①地域と連携するBCP機能向上の取組みとして、隣接施設との連携を可能とするケーブル線路の設置。②保守性向上策として、特高変圧器1台増設用のスペース確保。③災害時への対応まで考慮した、非常用発電機兼用コージェネレーションの採用。④エコ・アクションキャンパス＝高度な教室照明の制御、学生の屋外利用を促す工夫、教室の割り当てに省エネルギーの視点を導入。⑤BEMS活用により、エネルギー消費で基準値より-34%を実現。本業績は、「国土交通省”住宅・建築物省CO2船頭事業”」に採択されており、高く評価する。	一般社団法人電気設備学会
2017	大阪いばらきキャンパス	キャンパス	日本建築家協会優秀建築選	☆会員の交流と創作活動の向上を目指し、その活動と業績を広く社会に広める為に創設しました。「日本建築家協会優秀建築選」として100作品以内を選定し、その中から「JIA日本建築大賞」及び「JIA優秀建築賞」候補を選び、「JIA日本建築大賞」1点、「JIA優秀建築賞」数点を選びます。	日本建築家協会
2018	大阪いばらきキャンパス	キャンパス	第32回空気調和・衛生工学会振興賞「技術振興賞」	☆立命館大学大阪いばらきキャンパス～地域と連携したエコアクションキャンパス～	空気調和・衛生工学会
2019	大阪いばらきキャンパス	キャンパス	第60回BCS賞受賞	☆行政と大学が連携し、防災公園、商工会議所、ホールなどの公共施設と大学施設の一体型整備を実現している。地域住民の日常利用と学生活動の魅力的な共存は、今後のキャンパスの在り方を示す新たなモデルとして大きな意味を持っている。	一般社団法人日本建築業連合会

年度	キャンパス	対象	賞	受賞理由・賞の趣旨・応募理由等	賞の主催
2020	大阪いばらきキャンパス	キャンパス	第17回公共建築賞優秀賞	<p>☆まちに未来をもたらす「まぜるキャンパス」をコンセプトに、学生同士、学生と市民の接点を最大限に目指した新時代の大学キャンパスである。茨木市、立命館大学、UR 都市機構の官民が一体となり、ビール工場跡地に、防災公園、市民開放施設、大学を整備している。特筆すべきは、境界が見えないキャンパスと公園の関係、都市軸と動線が十分に検討された配置計画とそれらが生み出す風景である。公園のみならず、大学内には、レストラン、カフェはもちろん、ギャラリー、図書館、まちライブラリー、ホール（成人式にも利用）、さらには商工会議所まで、さまざまな開放施設が設けられている。大屋根と屋内外テラスを持つ、公園に面した「コンコース」と呼ばれる明るい主動線空間にはヒューマンスケールのコーナーが展開され、掲示板や家具が学生たちの思い思いの活動をサポートし、新しい教育環境としても魅力的である。地域施設と一体化されたキャンパスの運用は、地域連携室が担い継続的な運用を行っている。市民参加型のガーデニング講座や、失われた里山を再生するボランティアはじめ、大学教職員、学生、市民が一体となった活動、さまざまな共同イベント、地域住民の日常利用と学生活動の魅力的な共存は、真の意味での「地域に開かれたキャンパス」として今後の大学の在り方を示す新たなモデルとして大きな意味を持っており、そのチャレンジと成果は高く評価される。</p>	一般社団法人公共建築協会
2020	大阪いばらきキャンパス	キャンパス	令和2年度おおさか環境にやさしい建築賞	<p>☆公園との境のない社会と地域に開かれた大学キャンパスであり、人を育てる教育施設として様々な環境配慮技術を積極的かつ挑戦的に取り入れている。例えば、知のプリズム、知のハニカム、杜のユラギと名付けられた機能分化されたファサードをはじめとした数多くの環境配慮技術を採用した上で、キャンパスをまるごと環境配慮型に取り込んだ運用システムを構築し、省エネと教育、地域連携を図るとともに、防災のまちづくりにも貢献する先進的の大学キャンパスである。</p>	大阪府
2020	大阪いばらきキャンパス	キャンパス	令和2年度おおさかストップ温暖化賞特別賞（愛称：“涼”デザイン建築賞）	<p>☆食堂棟と市民交流施設の間は、大きな庇により日影を形成している。敷地内に緑地、キャンパス中央に水辺を配置し、暑熱環境を緩和している等が評価された。</p>	大阪府
2024	大阪いばらきキャンパス	デザイン科学研究所／株式会社アイシン	2024年度グッドデザイン賞	<p>☆性被害やっつけたるわファミかるたSNS編；見て見ぬふりや、やったつもりは、もうお終い。「子どもの性被害防止」というデリケートなテーマへのアプローチには、細心の注意を払い、具体的な行動に移しつつ、人口に膾炙するまでやり続ける覚悟と勇気が必要だ。「子どもを守りたい」という一点に、産学の共感が凝縮され、熱量の迸りが、具体的なデザインを呼び起こし、当カルタが誕生した。</p>	公益財団法人日本デザイン振興会

年度	キャンパス	対象	賞	受賞理由・賞の趣旨・応募理由等	賞の主催
2023	立命館アジア太平洋大学	Green Commons	日本空間デザイン賞：2023Shortlist 公共生活・コミュニケーション空間 入賞	☆大小連なる集落のような家形コモンズに多様な個性が集う、互いの活動が刺激 を与え合う木造コモンズとして評価された。	一般社団法人日本空間デザイン協会 ／一般社団法人日本商環境デザイン 協会
2023	立命館アジア太平洋大学	Green Commons	ウッドデザイン賞 ハートフルデザ イン部門	☆多様な国籍、文化が交流する大学施設にふさわしい、重厚かつ洗練された3層吹 き抜けの大空間がよい。箱形のステージやDJブースなどの設備も併せ持ち、空間 の多様な使い方と日本の木の文化、木のデザインを訴求している。	一般社団法人日本ウッドデザイン協 会
2023	立命館アジア太平洋大学	グリーンコモンズ APハウス5	2023年度グッドデザイン賞	☆「グリーンコモンズ」は地方都市の国際大学において、国内外の学生たちが国 際的価値観を共有しながら対話できるコモンズづくりに取り組んだプロジェクト である。SDG sの目標達成を軸に、中期社会（ローカル）が持つ歴史や文化をリ スペクトしながらも、地球規模（グローバル）の共有目標であるサステイナビリ ティを建築のデザインで見事に解き明かしている。国家（ナショナル）という枠 組みを超えて、自由闊達に地球の未来のあるべき姿を議論できるのが学生の特権 である。地球人として地域で生きる術を考えるために創られた、国際社会をけん 引する素晴らしいコモンズの誕生である。 「APハウス5」は、中央に配置した共用部から、住戸棟が風車状に伸びる明快な ゾーニングである。共用部にはキッチンやリビングだけでなく、映画鑑賞やヨガ など多様な過ごし方に適した場所があり、日常の中でのコミュニケーションが促 進される。生活の主同戦である共用部は、いわば街の交差点である。同時に寮外 生やゲストは中央棟のみの利用が前提なので、セキュリティのラインも設定しや すい。外周部の耐震壁は角度や粗密を変えることで日射や視線を抑制しつつ外観 を特長づけている。理にかなった平面計画はアクティビティとプライバシーを両 立させており、大規模国際寮のモデルとなる建築である。	公益財団法人日本デザイン振興会
2023	立命館アジア太平洋大学	Green Commons建設プ ロジェクト	第9回サステイナブルキャンパス賞建 築・設備部門 大賞	☆県産スギを活用した国内大学初木造3層吹抜コモンズを持つ校舎。Green Commonsは構造材の95.5%を大分県産材を用いており、地産地消を実現してい る。また、一般的な技術を用いて木造3階建ての校舎を実現しており、九州経済 圏で川上から川下まで完結する汎用性が高い仕組みとなる。	一般社団法人サステイナブルキャン パス推進協議会
2015	立命館中学校高等 学校	キャンパス	第26回照明普及賞	☆照明普及分科会では、昭和32年(1957年)創設以来、その年に竣工した優秀な照 明施設を「照明普及賞」として表彰してきました。	
2016	立命館中学校高等 学校	キャンパス	第2回サステイナブルキャンパス賞 2016学生生活動・地域連携部門奨励賞	☆最先端環境配慮技術を導入し、大学が中高・生徒と共に考えるエコスクール	一般社団法人サステイナブルキャン パス推進協議会

年度	キャンパス	対象	賞	受賞理由・賞の趣旨・応募理由等	賞の主催
2017	立命館中学校高等学校	キャンパス	第31回空気調和・衛生工学会振興賞「技術振興賞」	☆敷地のポテンシャルに鑑み、自然エネルギーを最大限活用した省エネシステム・生徒の自主的な環境活動を促す省エネ啓蒙システムを導入しています。一方で、経済性の高い汎用機器を最適制御するシステムを組み合わせ、一次エネルギー消費量が平均的な学校建築の約33%であることや、CASBEE新築による環境性能評価でも高い環境効率を実現しています。CASBEE新築による環境性能評価で高い環境効率を実現。「日本最先端のエコスクール建設」を目標に建設しました。	空気調和・衛生工学会
2022	立命館中学校高等学校	キャンパス	令和4年度気候変動アクション環境大臣表彰（普及・促進部門）	☆立命館中学校・高等学校の長岡京キャンパスは環境配慮技術の5つの柱（地域性を活かした計画、自然エネルギー利用、ピークカットに寄与する電力デマンド低減、災害時の地域貢献と省エネの両立、学校活動と連携した環境の取り組み）を軸に、建築・設備技術が融合した新しいエコスクールとして2014年9月に開設した。キャンパス各所に太陽光や雨水の積極利用、CO <sub>2</sub> 削減の工夫をはじめ、環境に関するパネル展示等も行い、校舍自体を環境教育の学びの場と位置づけ探究学習にも活用している。あわせて創エネ・蓄エネによる継続的な電力確保や水貯留槽設置により地域住民の避難所としての機能も有していることも特徴。毎年11月にはJSSF（Japan Super Science Fair）やRSGF（Rits Super Global Forum）を主催し、海外約20カ国・地域の生徒とSDGsなどのテーマについて学び、交流を深めている。 こうした「エコスクール」を活かした気候変動対策や環境航育が評価された。	環境省
2022	立命館慶祥中学校高等学校	木質バイオマスボイラー	第8回サステイナブルキャンパス賞建築・設備部門 大賞	☆「立命館慶祥中学校・高等学校熱源・空調改修工事プロジェクト」。北海道にある立地から冬場、暖房が欠かせない立命館慶祥中学・高等学校。立命館の附属校のなかで最もCO <sub>2</sub> を排出していました。そこで、カーボンニュートラルな燃料である木質チップ（木質バイオマス）を利用した木質バイオマスボイラーと液化天然ガス（LPG）を利用したボイラーを導入しました。森林資源由来の木質バイオマスを安定的に入手できるという北海道のメリットを生かし、再生可能エネルギーの利用をベースにししながら、必要な分だけLPGボイラーを使用することで、CO <sub>2</sub> 排出量の削減を図りました。CO <sub>2</sub> 排出量は従来よりも、熱源空調設備で71%削減、建物全体で35%削減できる見込みです（現在、実運用下で測定中）。将来、木質バイオマスの燃料灰を地域の土壌改良材（肥料）や融雪剤として活用でき、バイオマスエネルギーの利活用を通じて、地球温暖化防止や資源循環などを学ぶことができる教育的活用も視野に入れていきます。	一般社団法人サステイナブルキャンパス推進協議会